

# 【阿井地区の連携ビジョン（将来像）】



## 阿井地区のこれまで

- 人材
  - 【現状】
    - ・組織発足時のメンバーが中心
  - 【問題点】
    - ・新たな人材の発掘が必要
- 防除作業
  - 【現状】
    - ・個人又は共同で導入した動力噴霧機利用しての防除が中心
  - 【問題点】
    - ・高温期の防除で体力が必要
    - ・散布に多くの時間が必要
    - ・散布する際の手が多く必要
- 資材の購入
  - 【現状】
    - ・H28年より肥料、農薬の一括購入の取り組みにより、10%の値引き購入を実施
  - 【問題点】
    - ・肥料、農薬以外の経費について一括購入は未実施
- 秋作業(コンタミ防止)
  - 【現状】
    - ・H27年よりモチ米、酒米において組織間連携活動を実施。天候不良時の品質低下防止
  - 【問題点】
    - ・既存の施設を利用しているため掃除は必須。モチ米、酒米専用施設の整備が必要
- 育苗の取り組み
  - 【現状】
    - ・JAからの購入が中心
    - ・育苗施設が不十分
  - 【問題点】
    - ・苗の徒長等品質が不安定
    - ・育苗ハウス等の整備が遅れている
- その他
  - 【現状】
    - ・中山間地域直接支払い制度等の活用において連携活動が未実施

## 【基本構想】

- 各組織の所有する機械・施設の相互利用により水稻生産の安定化を目指す
- 連携活動によりコスト低減の取り組みを推進する ○新技術の導入を積極的に取り入れ相互活用を推進する
- 担い手育成の取り組み持続的農業生産を目指す

## 【取り組み体系】

### 【ドローン防除の取り組み】

- 新技術ドローンの導入・活用
  - 0台→3台導入
  - 農薬・除草剤散布に活用
  - 将来は生育診断の実施

- 【効果】
  - ・農薬散布作業の軽減
  - ・適期防除の実施
  - ・コストの削減
  - ・若手の作業参加
  - ・品質向上



### 【新たな人材育成】

- 地区内外からの新規人材発掘
  - 0名→3名以上
- ドローンオペレーター育成（6名以上）
  - ドローンパイロット育成研修への参加

- 【効果】
  - ・ドローン活用为中心的活躍
  - ・将来のメインメンバーへ
  - ・ドローンオペから他機械オペに発展



### 【集落連携・機能維持加算の活用】

（中山間地域等直接支払制度）

- 集落協定間の連携・広域協定化
  - 既存活動+連携活動による新たな活動実施
- 【新たな取り組み】
  - A地区内外の新たな人材を確保
  - Bドローン等による防除体制づくり

- 【効果】
  - ・連携体制の充実
  - ・新規活動の取り組み実施
  - ・新規取り組みに対する財源の確保

### 【資材の共同購入】

- 農薬肥料の一括購入の拡大
  - 2300万円→2500万円以上
- 栽培資材・燃料の共同購入の実施・拡充

- 【効果】
  - ・コストの削減
  - ・決済日の延長・経営安定化



### 【秋作業の連携】

- 収穫+乾燥調整における連携の拡充
  - H28：1.6ha→H29：3.7ha→H35：5.0ha
- 専用乾燥施設の導入

- 【効果】
  - ・天候不順時の品質向上
  - ・酒米、モチ米コンタミ防止



### 【育苗の実施】

- 地区内育苗の取り組み拡充
  - J A 苗購入主体→地区内育苗主体

- 【効果】
  - ・苗質の向上
  - ・苗販売による収入の確保
  - ・地域内連携拡充



### 【組織の法人化】

- 連携組織の法人化を推進する
  - 【効果】
    - ・活動の持続性強化

（農家の経営安定・水田の保全・担い手の確保・・・）  
**阿井地区農業の維持・発展**